

1. 特に効果的であり改善に資した事例について

A. コースワークの充実・強化

⑥その他

●神戸女学院大学人間科学研究科人間科学専攻環境科学分野

「環境と健康のために行動する女性科学者養成」の事例

(具体的に何を実施したのか)

従来のカリキュラムでは大学院生の語学教育は、あまり重視されていなかったため、「サイエンスのための語学研修」を設けた。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

大学院生のライティングとコミュニケーション能力の向上をはかることに主眼をおき、ネイティブの講師を招いて毎週研修を実施した。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

アンケート結果では、参加した多くの大学院生が、科学論文を書いたり読んだりする能力、英語によるコミュニケーション能力を高める上で役立ったと考えている。

1. 特に効果的であり改善に資した事例について

D. 産業界、地域社会等多様な社会部門と連携した人材養成機能の強化

①国内外におけるインターンシップ・フィールドワークの充実

●神戸女学院大学人間科学研究科人間科学専攻環境科学分野

「環境と健康のために行動する女性科学者養成」の事例

(具体的に何を実施したのか)

実践的な科学者、研究者を養成するために、大学院生が学内外で自分の研究成果等を発表する「サイエンス・アウトリーチ」、国内外の研究機関やフィールドに滞在する「インターンシップ」を実施した。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

大学院のカリキュラムとの関係で大学院生の長期の滞在は難しいため、夏季休暇中に1か月程度の国外インターンシップを実施するか、あるいは国内の受入れ先に週1回程度の頻度で3か月ほど実施するか、の2パターンを採用した。また、既存の専門演習科目の中に一部取り込むことで単位化をはかった。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

一般の方を対象として研究発表を行うことで、自分の研究を改めて見直す機会となり、理解を深めることができたなど、研究へのフィードバック効果があった。また、インターンシップはコミュニケーション能力の向上に役立った。